

明るい子 かしい子 たくましい子

元気がある 夢がある 楽しい学校 中央小



中央小だより

令和6年度 6月号

蕨市中央6-8-25

TEL 442-2672

児童数	(名)
計	385



井上選手から危機管理を学ぶ～一流の危機管理～

校長 はらだ たくじ 原田 卓治

先月6日、プロボクシングのスーパーバンタム級の4団体統一王座の防衛戦が行われ、井上 尚弥選手がルイス・ネリ選手をTKO(テクニカルノックアウト)にて破り、防衛を果たしました。対戦をみている人が驚かされたのは、1ラウンドに井上選手がプロになって初めてダウンを喫したことでした。

しかしながら、そうした予想外の展開にも関わらず、井上選手は冷静に対処し、勝利に結びつけました。

実は、その「冷静な対処」が技術的にも精神的にも非常によく練り上げられたものであったことが、元世界王者の長谷川穂積氏の話からよくわかりました。

まず、ダウンの後の対処です。井上選手の語ったところによると、ネリ選手の左のフックによる攻撃が、全く見えていなかったそうです。本人も相当驚いたと思われます。しかし、その後の対処が素晴らしいものでした。彼はダウンした後、カウント8で立ち上がりました。身体的なダメージ自体はさほど大きなものでなかったため、すぐ立ち上がることもできたはずですが、しかしそうはしなかったのです。長谷川氏の見解によると、「こんなピンチもあると想定して、しっかりシミュレーションをしていたのだろう。」と言います。

そして、その直後のネリ選手の猛攻にも実にうまく、冷静に対処しそのピンチを切り抜けます。更に、2ラウンド以降は、井上選手によると「1ラウンドでの失点を以降のラウンドで確実に取り返していく」戦法に切り替え、(ノックアウトすることに固執しない)それが功を奏して勝利に結びつけました。

やはり一流のプロフェッショナルならではの考え方だと改めて感心しました。

- ①「最悪の事態を常に想定しておくこと(想定外をつくらない)」
 - ②「現在起こっている危機を冷静に見つめること。最善策を改めて考察すること」
 - ③「最善策を着実に実行すること」
 - ④「危機管理対策がうまく機能しているか常に状況を把握し、いつでも改善ができるようにしておくこと」
- こういったことを井上選手はもの見事に成し遂げたのです。

学校の教育活動においては、自然災害・教育活動上における児童・教職員の事故・第三者による危害等、様々な危機状況が起こり得ます。

そうした状況に対して、教職員も児童も、それを想定した訓練を年間を通じて行ってはいますが、やはり大切なのは、そうした訓練を通して、「こんなことも起こり得るのではないか」と常に考え続け、その対応策を練ることに尽きると思います。

今年度も、安心・安全な学校を心がけて参ります。